

日本人対象

2023 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻

修士課程

入試案内書

博士後期課程

問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻

TEL 03-5841-6610

2023 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻
修士課程入学試験案内書

「航空宇宙工学専攻の教育・研究上の目的」

- (1) 未開拓技術の宝庫であり産業としての発展の可能性が大きい航空宇宙工学：
技術・利用面で未成熟であり将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸福のためにそれらを積極的に活用していくための研究／教育を行うこと。
- (2) 先端的技術を他分野へスピノフする航空宇宙工学：
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究／教育を行うことにより、他の多分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指すこと。
- (3) システム統合化技術の象徴である航空宇宙工学：
航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が特に強く要求されている。その特質をいかし、航空宇宙のミッションを題材にシステムインテグレーション及びその実践的研究／教育を行うこと。

1. この案内書は、2023 年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項を補足するものである。なお、受験生は、後日専攻ホームページに掲載される『受験者心得』を必ず熟読のこと。

2. 募集要項に記載されている通り、2023 年度の航空宇宙工学専攻の収容予定人員は、37 名である。

本専攻の試験は、TOEFL[®] (TOEFL iBT, TOEFL iBT Special Home Edition) 公式スコア、一般教育科目 (数学) 筆記試験、専門科目筆記試験と口述試験よりなる。原則として、口述試験を含むすべての科目の受験を義務づける。

注意 本専攻の修士課程入学試験を受験するためには、TOEFL[®] (TOEFL iBT, TOEFL iBT Special Home Edition) 公式スコアを 8 月 16 日 (火) までに工学系研究科に届くように提出する必要がある。詳細は、別紙「令和 5 (2023) 年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語 (英語) 試験に関するお知らせ」を参照すること。

3. 専攻大学院入試説明会を 5 月 13 日 (木) 12 時 15 分よりオンラインにて実施する。詳細は専攻ホームページに掲載される。

4. 試験の日程は以下のとおりである。試験会場は 2022 年 8 月 26 日 (金) 午前 10 時までに工学系研究科 Web サイトに掲載する (受験者心得参照のこと)。その他の科目の試験会場は同時刻頃に航空宇宙工学専攻玄関 (工学部 7 号館) に掲示する。

月 日	時間	科目	備考
8月29日(月)	13:00-15:00	数学	注1)
8月30日(火)	9:00-12:00	専門科目	注2)
	13:30-16:30	専門科目	注2)
8月31日(水)	午前・午後	口述試験	注3)

注1) 一般教育科目「数学」は、6題全て解答するものとする。

注2) 専門科目筆記試験は、午前、午後とも、流体力学(流体力学、高速空気力学)・固体力学(材料力学、構造力学)・航空宇宙システム学(飛行力学、制御学)・推進工学(熱力学、機械力学)の合計4科目より3科目を随意選択して解答するものとする。

注3) 口述試験は、受験生が大学院に入学してから研究しようとする分野に関する事項および学部における卒業論文に関する事項について行う。試験時間は試験期間中に掲示する。

5. 航空宇宙工学専攻教員

航空宇宙工学専攻の教員は、本専攻の専任教員(本郷)、先端学際工学専攻、新領域創成科学研究科および宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の関係教員より成る。2022年4月現在、航空宇宙工学専攻の教員は34名であり、各教員の専門分野は、別表のとおりである。表中、*印を付した教員は2023年3月に、**印を付した教員は2024年3月に退任の予定である。

備考

- 1) 東京大学大学院学則第11条により大学院学生は、その属する専攻の教員を指導教員としなければならない。
- 2) 別表中の所属欄の航空宇宙は本専攻の専任教員(本郷)、先学際は先端学際工学専攻、新領域は新領域創成科学研究科、先端研は先端科学技術研究センター、宇宙研は宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の略である。

6. 10月入学を希望する者は、研究室配属の際の受入れ可能教員に制限があるので、詳細について、出願前に必ず本専攻事務室に問い合わせること。

7. 指導教員は、2022年9月に合格者に対し希望調査を実施後、2022年11月末迄に決定する。尚、「東京大学安全保障輸出管理規則」に基づいて、規制されている事項に該当する場合は、希望する指導教員への配属に制限がかかる場合がある。日本国籍以外の受験生は別途配布される指導教員候補調査書を提出すること。

8. 新型コロナウイルス感染症により対面受験が叶わない場合は、部分的なオンライン試験や別日程での試験による追加試験対応をとることを予定している。判明した時点で問い合わせ先に連絡すること。

9. 筆記試験の際携行すべきものは、次のとおりである。

筆記用具・定規・コンパス・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）

2023 年度
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻
博士後期課程入学試験案内書

「航空宇宙工学専攻の教育・研究上の目的」

- (1) 未開拓技術の宝庫であり産業としての発展の可能性が大きい航空宇宙工学：
技術・利用面で未成熟であり将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸福のためにそれらを積極的に活用していくための研究／教育を行うこと。
- (2) 先端的技術を他分野へスピンオフする航空宇宙工学：
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究／教育を行うことにより、他の多分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指すこと。
- (3) システム統合化技術の象徴である航空宇宙工学：
航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が特に強く要求されている。その特質をいかし、航空宇宙のミッションを題材にシステムインテグレーション及びその実践的研究／教育を行うこと。

1. この案内書は、2023 年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項を補足するものである。なお、受験生は、後日専攻ホームページに掲載される『受験者心得』を必ず熟読のこと。

2. 募集要項に記載されている通り、2023 年度の航空宇宙工学専攻の収容予定人員は、18 名であり、選考は第 1 次試験及び第 2 次試験より成る。
本専攻の第 1 次試験は TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Special Home Edition) 公式スコア、一般教育科目(数学)筆記試験、口述試験からなる。原則として、口述試験を含むすべての科目の受験を義務づける。
なお、募集要項第 3 項について、「出願日程 B」は行わない。

注意 本専攻の修士課程入学試験を受験するためには、TOEFL® (TOEFL iBT, TOEFL iBT Special Home Edition) 公式スコアを 8 月 16 日 (火) までに工学系研究科に届くように提出する必要がある。詳細は、別紙「令和 5 (2023) 年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語(英語)試験に関するお知らせ」を参照すること。

3. 専攻大学院入試説明会を 5 月 13 日 (木) 12 時 15 分よりオンラインにて実施する。詳細は専攻ホームページに掲載される。

4. 第 1 次試験の日程は以下の通りである。試験会場は 8 月 26 日(金)午前 10 時までに工学系研究科 web サイトに掲示する(受験者心得参照のこと)。

月 日	時間	科目	備考
8月29日(月)	13:00-15:00	数学	注1), 注2)
9月1日(木)	午後	口述試験	注3), 注4)

注1) 一般教育科目「数学」は、6題全て解答するものとする

注2) 第1次試験の TOEFL®公式スコア提出および一般教育科目(数学)筆記試験は、本学の工学系研究科および新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻の修士課程を修了した者、もしくは修了見込みの者については省略する。その他の者に対しては修士課程入学試験と同一の問題を受験させる。

注3) 第1次試験の専門学術に関しては、次の4つのグループに別れて口述試験のみを行う。グループは願書に記載した志望指導教員の所属によって決まるものとする。

- A. 空 気 力 学 部 門
- B. 構 造 ・ 材 料 部 門
- C. 飛 行 力 学 ・ 制 御 部 門
- D. 原 動 機 ・ 推 進 部 門

注4) 第1次試験の口述試験は、受験生の専門領域に関する事項について行う。受験生は、修士課程での研究内容の要約を A4 用紙 2~4 枚程度の資料として用意すること。なお、修士課程既修了者は、修士課程修了後さらに研究を行った場合には、その概要も上記資料に加えるとともに、修士論文も持参すること。試験場所、試験時間、必要資料部数などは 8 月 29 日 (月) に工学部 7 号館ロビーに掲示するので確認すること。

5. 第2次試験は、原則として 2023 年 1 月下旬から 2 月中旬に専門学術に関する口述試験により行う予定である。受験生には後日通知する。

6. 航空宇宙工学専攻教員

航空宇宙工学専攻の教員は、本専攻の専任教員(本郷)、先端学際工学専攻、新領域創成科学研究科および宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の関係教員より成る。2022 年 4 月現在、航空宇宙工学専攻の教員は 34 名であり、各教員の専門分野は、別表のとおりである。表中、* 印を付した教員は 2023 年 3 月に、**印を付した教員は 2024 年 3 月に退任の予定である。

- 1) 備考 1) 東京大学大学院学則第 11 条により大学院学生は、その属する専攻の教員を指導教員としなければならない。
- 2) 別表中の所属欄の航空宇宙は本専攻の専任教員(本郷)、先学際は先端学際工学専攻、新領域は新領域創成科学研究科、先端研は先端科学技術研究センタ

一、宇宙研は宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の略である。

- 3) 「東京大学安全保障輸出管理規則」に基づいて、規制されている事項に該当する場合は、希望する指導教員への配属に制限がかかる場合がある。日本国籍以外の受験生は別途配布される指導教員志望調査書を提出すること。

7. 新型コロナウイルス感染症により対面受験が叶わない場合は、別途の追加試験等の対応をとることを予定している。判明した時点で問い合わせ先に連絡すること。

8. 専門科目筆記試験で使用してよいものは、次のとおりである。

筆記用具・定規・コンパス・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）

2022年4月現在

航空宇宙工学専攻教員一覧表

課程担当教員

所 属	職 名	氏 名	専 門 分 野
航空宇宙	教 授	藤 本 浩 司 *	材料強度学
〃	教 授	渡 辺 紀 徳 *	内部流体・流体機械・空力弾性
〃	教 授	青 木 隆 平 **	構造力学・複合材料力学
〃	教 授	李 家 賢 一	航空機設計法・航空流体力学・剥離流
〃	教 授	中 須 賀 真 一	宇宙システム工学・宇宙機の知能化・人工衛星
〃	教 授	津 江 光 洋	燃焼工学・推進工学
〃	教 授	岩 崎 晃	宇宙利用工学・地球観測
〃	教 授	小 紫 公 也	電気推進・先端推進・電磁エネルギーシステム
〃	教 授	寺 本 進	回転機械・内部流体力学・数値流体力学
〃	教 授	土 屋 武 司	航空機力学・制御工学・宇宙輸送システム
〃	教 授	姫 野 武 洋	内部熱流体・宇宙推進工学・数値流体力学
〃	准教授	今 村 太 郎	航空流体力学・数値流体力学・計算空力音響学
〃	准教授	中 谷 辰 爾	反応性熱流体・航空宇宙推進・燃焼工学
〃	准教授	横 関 智 弘	複合材料構造力学
〃	准教授	船 瀬 龍	宇宙機の航法誘導制御・深宇宙探査システム
〃	准教授	水 口 周	先進複合材料・スマート構造
〃	准教授	伊 藤 恵 理	航空交通管理・航空輸送システム
〃	准教授 (特任)	カーン・モハメ ッド・サミル	予測・システムヘルスマネジメント
〃	准教授 (特任)	伊 藤 優	航空宇宙推進・熱流体工学
〃	准教授 (特任)	樋 口 諒	複合材料力学・計算力学

課程担当教員

所 属	職 名	氏 名	専 門 分 野
新領域	教 授	鈴木 宏二郎	極超音速熱空気力学・月／惑星探査
〃	教 授	上 西 幸 司	材料力学・衝撃工学
〃	准教授	小 泉 宏 之	宇宙推進工学・プラズマ工学
先学際	教 授	矢 入 健 久	宇宙システムの知能化・機械学習
先端研	教 授	西 成 活 裕	非線形力学・流体弾性論・セルオートマトン
〃	准教授	柳 澤 大 地	流体力学・セルオートマトンの応用
宇宙研	教授（委嘱）	嶋 田 徹 *	ロケット推進工学・燃焼／混相流体力学
〃	教授（委嘱）	峯 杉 賢 治	飛翔体構造工学
〃	教授（委嘱）	津 田 雄 一	宇宙機システム・軌道力学・宇宙航行力学
〃	教授（委嘱）	後 藤 健	耐熱複合材料・飛翔体構造材料
〃	准教授（委嘱）	小 川 博 之	宇宙熱流体工学
〃	准教授（委嘱）	西 山 和 孝	電気推進
〃	准教授（委嘱）	大 山 聖	高速空気力学・設計工学
〃	准教授（委嘱）	野 中 聡	ロケットの空気力学・宇宙輸送システム

令和5(2023)年度 東京大学大学院工学系研究科入学試験受験者心得

1. 試験日

令和 4(2022)年 8 月 29 日(月)～9 月 2 日(金)

(各科目等の試験時間・場所の詳細は、志望専攻の「専攻入試案内」を参照すること。)

2. 試験場

東京大学大学院工学系研究科(東京都文京区本郷 7-3-1)試験場案内図参照

- (1) 各自が受験すべき科目の試験室については、2022 年 8 月 26 日(金)午前 10 時までには工学系研究科 Web サイト及び各専攻 Web サイトに掲示するので、予め試験室を確認しておくこと。
- (2) 受験者は、試験開始時刻の 20 分前までに所定の試験室に入室すること。なお、専門科目(専門学術)試験については、専攻において別に指示することもある。

3. 試験当日に持参するもの

- (1) 受験票
- (2) 黒色鉛筆(又はシャープペンシル)、消しゴム、鉛筆削り(卓上式は不可)、時計(計時機能だけのもの)、マスク(予備も含む)。
- (3) 携帯電話等の電子機器類は、試験室入室前にアラームの設定を解除した上で電源を切り、カバン等に入れ、身につけないこと。携帯電話等を時計として使用することは認めない。
- (4) 試験中はマスク(無地のものに限る)を正しく着用する(鼻と口の両方を確実に覆う)。
- (5) 専門科目(専門学術)試験の携行品については、専攻において別に指示することもある。

4. 一般教育科目(一般学術)試験時の留意事項

- (1) 監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験時間中の退室は、解答を終えた場合でも、また、試験を放棄する場合でも認めない。
- (3) 試験時間中、受験票を常に机の上に置くこと。
- (4) 解答用紙及び問題冊子は、持ち帰ってはならない。
- (5) 監督者の指示があるまで退室しないこと。

5. 博士課程第 2 次試験

博士課程第 2 次試験は、原則として令和 5(2023)年 1 月下旬から 2 月中旬とし、期日・場所は追って通知する。

6. その他

- (1) 合格者は、令和 4(2022)年 9 月 8 日(木)午後 4 時頃、本研究科 Web サイトに掲示する。
(<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe?hsLang=ja>)
- (2) 電話、FAX、メール等による合否の照会には応じない。
- (3) 出願以後において、メールアドレス、電話番号等連絡先に変更が生じた場合には、速やかに届け出ること。
- (4) 問合せ先：東京大学大学院工学系研究科学務課大学院チーム
daigakuin.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp、03-5841-6038、7747

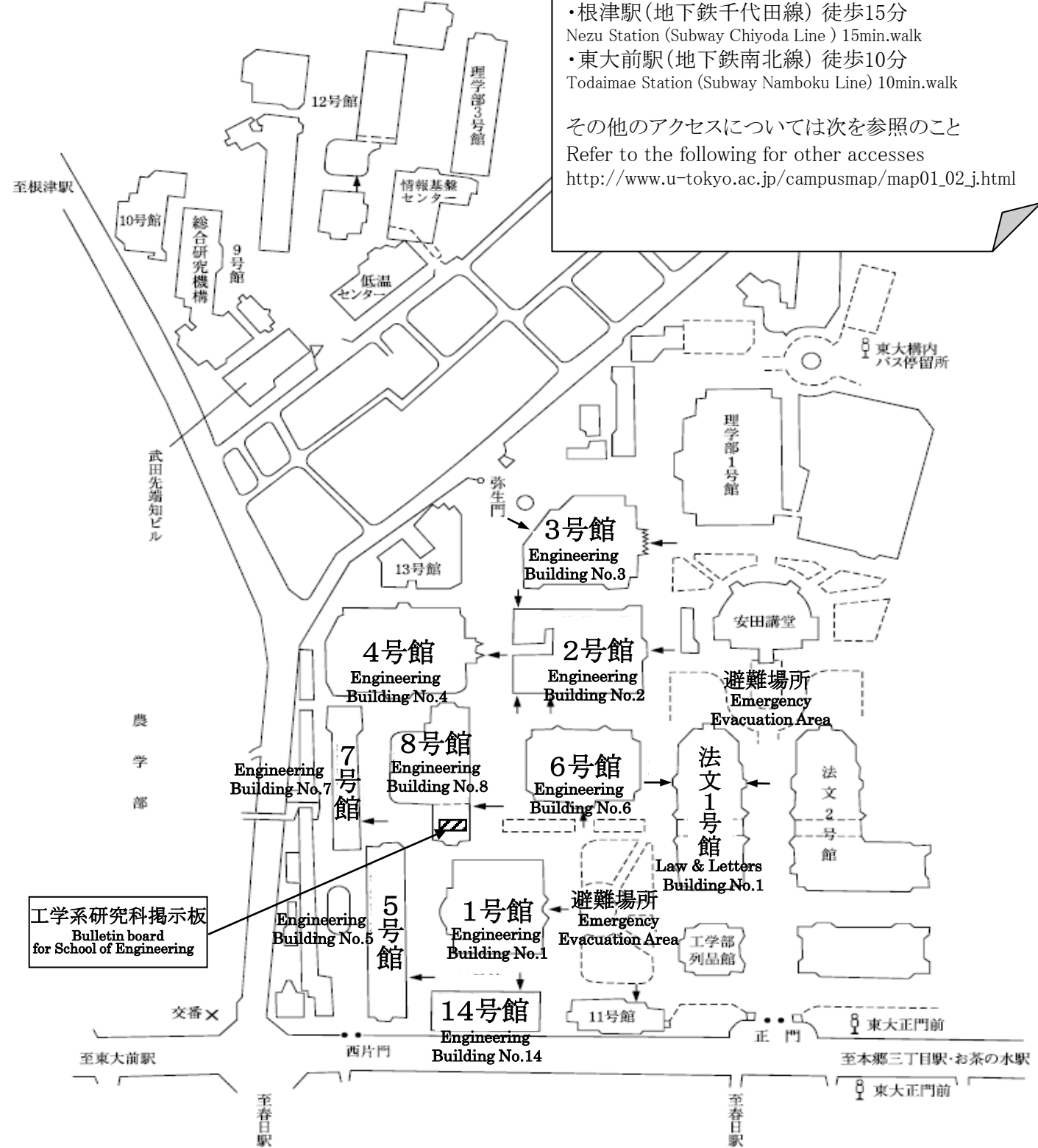
試験場案内(東京大学本郷キャンパス)
 Campus Map for the Examination
 (Hongo campus, the University of Tokyo)

地下鉄利用 Subway

- 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線) 徒歩20分
Hongo-sanchoime Station (Subway Marunouchi Line) 20min.walk
- 本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線) 徒歩20分
Hongo-sanchoime Station (Subway Oedo Line) 20min.walk
- 根津駅(地下鉄千代田線) 徒歩15分
Nezu Station (Subway Chiyoda Line) 15min.walk
- 東大前駅(地下鉄南北線) 徒歩10分
Todaimae Station (Subway Namboku Line) 10min.walk

その他のアクセスについては次を参照のこと
 Refer to the following for other accesses

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html



工学系研究科掲示板
 Bulletin board
 for School of Engineering

Law & Letters
 Building No.1

工学部
 列品館

東大正門前

東大正門前